



スイス マッターホルン 情報通信工学科 辻 琢人(撮影)

## 目 次

<a href="#">文章力について</a>	校長	布川 昊	2
<a href="#">図書館の電子化について</a>	図書館長	片岡 義和	3
<a href="#">図書館の思い出</a>	情報通信工学科	長岡 新二	4
<a href="#">ベトナムの紹介</a>	情報通信工学科4年	チン・フィン・テー	5
<a href="#">ここがヘンかな?マレーシア</a>	情報工学科4年	シャロー・イップ	6
<a href="#">編集後記</a>			7
<a href="#">学生のページ</a>		図書委員	8



## 文章力について

校長 布川 昊

卒論の作成期になると、この頃の学生は文章が書けない、という教官の大合唱が聞えてくる。寮誌などの文章を見る限り、今の学生に文章力が無いとは思われない、なかなか読ませる、楽しい原稿が集っている、そう言う、いや構想力が無い、論理的な文章が書けない、という返事が戻ってくる。甚だしきにいたっては、書けないだけではなく読めない、論理的な文章が3行も続くと、もう分らない、理解しようという努力を放棄してしまうらしい、との事である。そう言えば、寮誌の文章は、テレビのお笑いタレントの、本筋をはずしたギャグや洒落を散り嵌めた話ぶり、とよく似ている。

先年、小学校の友人から、私の小学校5年生の頃の綴り方を送ってきた。恩師が大切に保管しておられた我々の作品を、ご遺族から頂いてきて、級友達の思い出にと、返してきてくれたのである。その作文の文章を見て愕然とした。現在の自分の文章の原点を、そこに見出したからである。いや、小学校の頃から文章がうまかったと言いたいわけではない。また、今の自分の文章が小学校の頃から少しも進歩していないと卑下するつもりでもない。三つ子の魂百まで、と言うが、どうやら、小学校の頃の文章の特徴は長じても残り、基本的なところで生き長らえているらしい。

私達の経験では、小学校の2年生ぐらいになると「猿飛佐助」とか「塚原ト伝」とか、いわゆる講談物を読み耽った。立川文庫より後の世代、講談社からの少年講談世代である。大体200頁ぐらいのものを一晩で読んで回覧していた。3年生のときに大東亜戦争(太平洋戦争は占領軍の命名)が始った。敗色が濃くなるにつれ、本も次第に姿を消していった。家にあった大人向きの故事物語、数百ページの部厚い本を繰り返し繰り返し読んだ。一話が2乃至4頁位にまとめられており、挿し絵入りである。色はついていない、丁寧な線描画であった。大きな活字で、やや文語調、むし

ろ講談調、背伸びした子供向きの文章である。本の表紙もとれてしまうほど読んだ。いま思い返してみると、その文体に似ているような気がする。

新生人と古生人の文章力、文体の基本を作り上げた文化(?)を比べると、その対比の第1は、「テレビ」対「講談本」という事になりそうである。中学(旧制)に入って、勉強が難かしくなると、小説を読む「ゆとり」が無くなった。ただ歴史や地理の試験は、「ルネサンスについて」とか「マンチェスター地方について」知るところを記せというような設問が主であった。英語の疑問詞、who, what, when, where, why, howに答えねばならないと、構成の大切さを身につけるよう教ったが、今もって、そう論理的、体系的な文章が書けるわけではない。しかし、新旧の対比の第2は、「選択式」対「記述式」というところであろうか。論理的な文章は、ユークリッド幾何学の証明から学んだ。短くはあったが、題意を仮定と結論に分け、証明を正確で分かり易い日本語で書くという訓練は身についた。中学時代の代数は、計算が主になっていて、論理性は幾何学に比べて稀薄である。対比の第3は、「公文式計算」と「幾何学の証明」としておこう。もう一つ探すとすれば、漫画と劇画である。「サザエさん」や「フクちゃん」などは、4コマで話が完結するよう構成されており、1コマに情報が詰まっている。それらを味合い乍ら楽しむようになっていく。それらに比べて、昨今の劇画では、「ガァーッ」とか「ゴーオ」とか、主人公が風を切って突っ走っている。今の子供達の読む(見る?)スピードは恐ろしく早い。あんなに瞬間的に理解できるのかと、我々旧石器時代人は空恐ろしくなる。一説によると、劇画の1コマは漢字の1語に相当しているのだそうである。ゆっくり味合うのではなくて、スピード感を楽しみ、感覚的にパツと把握するらしい。そこで、「劇画」と「サザエさん」という対比を第4に置こう、もっといろいろあるかもしれない。

以上、卒論期の歎きの依ってくる所以を、少々こじつけ気味ではあるが、探ってみた。こんな時代風潮を背景に、卒論を書かせ、書かねばならないとすれば、1月、2月は学生にとっても、先生にとっても魔の季節かもしれない。しかし「憂しと見し世も、いまは恋しき」となる日もきっとくる。御健闘を祈ります。



## 図書館の電子化について

図書館長 片岡義和

情報技術 (Information Technology) の急激な進歩に、夢物語の世界とされていたことが次々と現実のものとなりつつあります。個人のレベルで携帯情報端末 (Personal Digital Assistans) に携帯電話を接続してのメールの送受信、インターネットのネットサーフィンによる情報の収集や電子図書館 (青空文庫等) の本を読むこともできるようになりました。

インターネットの普及と共に図書館の役割も大きく変化しつつあります。情報の書庫としての図書館から、情報収集・発信の窓口としての図書館への道を模索し始めております。

国立国会図書館をはじめ公立図書館・大学の付属図書館の蔵書目録の Web 版 OPAC (On-Line Public Access Catalog) が公開され、相互に蔵書の検索が可能になり、また、情報処理振興事業協会 (IPA) による「パイロット電子図書館」の実証実験も進んでおり電子図書館構想が実現しつつあります。これに伴い電子出版の標準化とも言えるものも現れ始めており、電子ジャーナルなどが PDF (Portable Document Format) や、HTML (Hyper Text Markup Language) 形式で配布されております。

すでに、国立国会図書館や各大学の付属図書館等のホームページには「電子図書館」の見出しがあり、大学の付属図書館は電子化の方向で準備が進んでおります。高等専門学校関係でも、すでに OPAC を導入しているところや、情報処理センターと一体化して、マルチメディアセンターの形で、図書館の電子化が進められております。

本校の図書館は、閲覧室の狭さ、蔵書・資料数の少なさ、蔵書検索システムの関係等を考慮すると、できるだけ早い時期に電子化に向けて動き出す必要があると思われます。

電子化と言っても、著作権のある書籍や資料を全てデジタル化することなど、到底できることではありません。デジタル化された文献・論文等の収集や電子ジャーナルの契約や、今後、学内で発行

される「紀要」などの出版物や、印刷物のデジタル化に関するものが主なものになると思われます。学内には、いろいろな機種種のコンピュータが設置され、使用されているソフトも様々です。書類の電子化は、どの機種からでも元になる書類と同じ配置、寸法で見たり、印刷できることが重要です。文字や画像のアナログデータ (素材) をデジタル信号に置き換え、これをまたアナログデータ (素材) に戻すだけであれば何とかかなりありますが、元どおりの文書 (同じ配置、寸法) に戻すとなると簡単ではありません。

コンピュータの機種や OS (Operating System) に関係なく使える共通のフォーマットとして最近多くの電子出版物が採用している形式には、HTML と PDF があります。Web 上で読むだけであれば HTML 形式でも充分と思われますが、ブラウザ (Browser) による再現性の違いがあり、印刷したときに元どおりにならないことがあります。その点、PDF 形式は、文書をファイルのままやり取りするので、元の文書と同じものが画面に再現されるし、印刷もできるのです。また PDF ファイルを開くためのソフトは各 OS 毎に Adobe 社から「Acrobat Reader」が無償で提供されています。

自然保護の観点から紙の印刷物が贅沢に利用できるのも時間の問題と思われる。限りある地球資源・環境を守ろうとする気持も、我々の文化のレベルを判断する基準の一つと思われる。図書館電子化への試みの一つとして、ここに「図書館だより」電子化第1号を図書館のホームページに公開します。また、紙の印刷物として読みたい人のために、従来どうりの形式でプリントできる PDF 版のものも用意しました。

図書館運営について皆様方からのご意見をお聴かせ下さい。

### 参考 URL

国会図書館 <http://www.ndl.go.jp/>  
 IPA <http://www.ipa.go.jp/>  
 Adobe 社 <http://www.adobe.co.jp/>  
 青空文庫 <http://www.aozora.gr.jp/>



## 図書館の思い出

情報通信工学科 長岡新二

小学校、中学校時代には、亡き父に連れられて、神戸の港が見える高台の図書館へよく行った。親父は読書好きで、歴史、文学、数学、物理、電子、化学などなど。あるときは、アインシュタイン、長岡半太郎、遠山啓、湯川秀樹・・・、あるときは万葉歌人から山頭火・・・など、解らぬ私に話しながら館内の書棚を巡り歩く。理科や歴史などの数冊の本を借りて、港を眼下に坂道を歩いて家路に向かう。途中に、絵を飾る小さな喫茶店があった。静かな曲の中で、親父と私は借りた本に目を通す。カレーライスかホットケーキのご馳走が楽しみであった。

大学受験浪人中は、昼間の予備校に行かず、この図書館の自習室で自分で作ったスケジュールに沿って夕方まで学習し、近くの予備校の夜間部へ通った。昼には母の作った弁当を食堂で食べ、半時間ほど自席で昼寝するのが楽しみであった。夕方にはこの食堂でうどんを食べて予備校へ向かうのが習慣であった。図書館で受験勉強ゆえ、参考書には困らなかった。大学入学後は、早々に、流行の学園紛争で図書館も封鎖され、利用した印象は薄い。

昭和47年に当時の電々公社武蔵野電気通信研究所へ入所した。そこには地下1、2階に大きな図書館がある。蔵書、雑誌に関しては、電子通信はもとより、建築、土木、機械、材料、医学などなど、ほぼなんでも揃っている。半世紀前の戦前の電気学会誌や IEE など特別資料室に見られた。数百、いや千件以上の先輩、現役研究者の博士論文が所蔵されており、これを閲覧することによって、私の関連する研究の背景や研究手法、文献調査に大いに役立った。古いものは数百ページに及ぶ手書きの論文もあった。研究所での勤務中は書く暇は無く(書いていると上司に叱られる)私もそうだが、帰宅後や休日に作成している。図書や雑誌の借用は館内のパソコンで各研究者のIDカードを認識し、雑誌などのバーコード読み取りで最大30冊まで可能である。現在の株式会社NTTの研究所はその研究内容に応じて関東、関西6ヶ所

に別れているが、各研究所に図書館があり、専門に応じた蔵書、雑誌類を保管している。各図書館保有雑誌などの情報を、研究者は自席のパソコンで検索してコピー依頼ができるシステムとなっている。ある図書館には、丸善などの一般書店の出張所があり、ここで直接購入することもできる。また一部では、英語圏の外人添削者が常駐し、海外学術誌や国際会議への投稿論文について、膝を交えて議論しながら査読と修正がされ、これは本当に助かった。

6年前に、たまたま帰宅中の神戸の自宅で震災を経験した。県立、市立図書館の被害は甚大で、半年以上、一年近く間閉鎖状態であった。建造物が修復されても、図書の整理と地域図書館との間のネットワーク回復に時間を要したと聞いた。このような時にこそ、図書館が地域のコミュニティーセンターとして、いち早く回復すべきであった、と強く感じた。

ところで、当校の図書館には電子、通信、情報に特化した書籍が大変多く、専門の異なる分野の学習に大いに役立っております。

十数年後には、孫の手を引いて、冒頭の港の見える図書館への坂道を歩いているやも知れません。



## ベトナムの紹介

情報通信工学科4年  
ティン・フィン・テー

日本から直線距離で約3600km(飛行機で6時間位)のところ、ベトナムという国があります。若い活力と魅力一杯の国、21世紀には飛躍的に発展する可能性を秘めた国といわれています。



- 面積：33万991km<sup>2</sup>
- 人口：約7900万
- 首都：ハノイ(Hanoi)
- 人種：キン族80%、その他の53少数民族20%
- 宗教：大乘仏教80%、カトリック：9%、カオダイ教、ホアハオ教等
- 言語：ベトナム語
- 産業：農業80%、工業とその他20%。

東経102°10'~109°30' 北緯8°30'~23°22'にある「S」字形のベトナムは東南アジアの中心となり、インド洋から太平洋の輸送接合点となります。また、熱帯気候と温帯気候の領域にあるので、年間平均湿度や平均雨量が日本に比べると、ベトナムのほうが高く、平均温度は27~27です。そこで、南部のホーチミンシティは26、北部のハノイは23で、南部と北部の気候が少し違います。南部では年間に梅雨と梅乾がはっきりした季節であり、北部では春夏秋冬という四節があります。

こういう気候を持っているベトナムでは、日本にあるりんご、ぶどう、バナナ、みかん、西瓜、パイナップル、マンゴなどがありますが、おいしいイチゴやメロン等が作ることはできません。その代わりに、熱帯的な果物の龍眼(学名:Logan)、ミルク果(学名:Cainoto)、荔枝(学名:Litchi)、ドリアンなどを歩けないほどいっぱい食べることができます。果物だけではなく、カレーやてんぷら、納豆などがベトナムにはありませんが、食

事がごはんで、中華料理が多くあり、ベトナム風のおいしい春巻き、ライスヌードル(Rice Noodle)等は食べたければすぐ食べられます。

ベトナムは中国文化圏の南端にあり、歴史上儒教を中心とする中国文化および大乘仏教文化を受けたため、倫理観や物の考えかた、箸を使う食生活等、さまざまな面で日本とも共通点が多いです。他方、フランス統治下、西洋文化の影響を受けたこともあり、西欧の合理精神も身に付けています。



400年前には、日本・沖縄とベトナムは活発に交易を行っていました。ベトナム中部のホイアンという町には当時の日本人街の跡が現在も保存されており、世界文化遺産に指定されています。しかしその後、いったん両国の関係は途切れることとなります。

90年代になると、ベトナムと日本との関係は新たな発展段階に入りました。近年の首脳相互訪問を経て、両国関係は経済面だけでなく、政治、文化にわたる幅広い分野での交流が進んでいます。多くのベトナム人留学生在が今、日本に留学できることもその友好関係のおかげです。

現在、ベトナムはASEANの一員として、対外開放と経済建設を進め、経済成長を続けています。観光客も急に増えています。首都でもあり、町並みなどにも落ち着きがあるハノイ(Hanoi)、店やレストランのいっぱいある現代的なホーチミンシティ、歴史の香りが漂うフエ(Hue)、それからなんとといっても、豊かで魅力的な自然のハロン湾(Halong湾)、ダラット(Dalat)があります。一度行ってみたいはいかがでしょうか?ただし、きれいな所だけでなく、いろいろな所へ行ってください。「何でも見てやろう」という気持ちで、ベトナムを理解し、私たちと一緒に、日本とベトナムの架け橋になってくださることを願ってやみません。



## ここがヘンかな? マレーシア

情報工学科4年  
シャロー イップ

ここでマレーシアのことについてちょっと紹介させていただきます。まず、私の大好きな題目から入りましょう。どの国の料理でもおいしく食べられるには、その国の食文化を少しでも知らなければなりません。マレーシアの主食はお米ですが、日本のお米よりかたいです。マレーシアは多民族のおかげでマレーシアの料理は多種多様です。主にマレー料理、中華料理とインド料理に



分かれます。中華料理以外のほとんどの

料理は日本風のカレーと違って涙を流すぐらいの辛い味がします。マレー系とインド系の人々は普通、右手で食べます。マレーシアの屋台で食べる時テーブルの上に茶わん1杯の水が見つかるかもしれません。時々レモンも飾っていて、特にカレーを食べた後においしいそうに見えるかもしれないが、その水を飲み水として飲まないでください。それは食事の後、汚れた手を洗う専用の水ですから。

マレーシアのおいしい食物は料理だけではなく果物もあります。マレーシアの熱帯気候のおかげでパパイヤ、マンゴ、パイナップル、ランブタン、マンゴスティン、バナナ、ココナツなどのおいしい果物を作っています。一番有名でマレーシア人が誇りに思っているのは、果物の王様とも呼ばれるドリアンです。

緑色の果皮にいっぱいのとげがあるドリアンは、見た目でもほとんどの観光客をびっくりさせます。しかし、ドリアンの特徴は珍しい香りがすることです。「ドリアンはどんなにお



いがするか」の質問をマレーシア人に聞いたら、「甘くてすごくいい香りがする」の返事が多いと思います。しかし、外国人に同じ質問を聞いたら「我慢できない臭いのおいがする」の返事も少なくないと思います。このためほとんどのホテルと空港はドリアンの持ち込みは禁止されています。

次のことはたぶん旅行案内書に書かれていないかもしれませんがマレーシアに旅行したい方はぜひ知った方がいいと思います。もし郊外に行くとき、公衆トイレを使おうと思う方は忘れていけない物2つがあります。小銭とトイレペーパーです。ほとんどのマレーシア人はトイレペーパーの代わりに水を使っているためトイレペーパーのない公衆トイレがほとんどです。そして、公衆トイレを入るとき10円以下の安い料金が必要です。マレーシアではお風呂の代わりに個人シャワー室を使います。マレーシアの気候は1年中でも温かいですから、お風呂に入る必要はありません。このせいで、そろそろ2年間日本に住んだ私は今でも恥ずかしくて裸で他の人と一緒にお風呂に入れません。

この小論を読んで「ヘンだよマレーシア人」と思ってしまう人はいるかもしれませんが、ここで伝えたいことはそれぞれの国は自分の文化と習慣があるので、自分と違う国籍の人と話す時ある程度の寛容は必要ということです。

～ 編集後記 ～

今回図書館便りは、web 上で閲覧できる ” 電子版 ” の図書館便りとなりました。web 上に掲載することにより、パソコンや携帯電話などインターネットにつながる環境があれば、いつでも、どこからでも図書館便りを閲覧できるようになりました。また新しい試みとして、学生が積極的に図書館便りの編集に参加することができるホームページ「電書波図(でんしょばと)」を設けました。学生が作る「電書波図」を通して、学生諸君が読書や図書館により多くの関心をもってくれることを期待しています。

このように新しくスタートした ” 電子版 ” 図書館便りには、不十分な点が多々あるかと思えます。また、今回のように完全に図書館便りを電子化することに対して様々な意見があると思えます。今後の図書館便りのあり方も含めて、みなさんから忌憚のない意見を頂ければ幸いです。

最後に、今回の図書館便りの発行にご尽力いただいた教官、事務職員の方々、図書委員の学生諸君に厚く御礼申し上げます。

(2001年3月 図書運営委員 辻 琢人)

## 図書館だよりニックネームの 募集結果とその由来

2月2日締め切りで図書館だよりニックネームを募集していました。その結果、次のような応募がありました。応募してくださった皆様、どうもありがとうございました。

<ニックネーム候補>

- ・ ネットホームルーム
- ・ 青春の間
- ・ My youth ~私の青春~
- ・ Freedom room ~自由の部屋~
- ・ Royal road ~王道~
- ・ students
- ・ 学っぺ
- ・ Friendship ~フレンドシップ~
- ・ TS box (Takuma students boxの略)
- ・ T2U (Takuma To You)
- ・ 学君
- ・ 詫間(電波)図書館センター
- ・ テレ本 booking
- ・ ああ
- ・ たくちゃん
- ・ 学生のホームページ
- ・ 仙台電波がよかった
- ・ 詫間一直線
- ・ 詫電学生ネット
- ・ 詫間学生 web station
- ・ 世界の星
- ・ 本の竜宮城
- ・ タクマの家
- ・ Hangouts of students ~学生達のたまり場~
- ・ @denba.look.takuma.
- ・ 本屋さん
- ・ でんぱッ娘
- ・ TNCT room
- ・ HAPPY LAND
- ・ 本の虫
- ・ たくでんアーカイブ
- ・ GTO ~グレート図書館のおじさん~
- ・ LSP ~ライブラリー・スチューデント・プロジェクト~
- ・ ウォッ!!
- ・ Shall we read a book?
- ・ Ignorance of Books ~本の無知~
- ・ 最後の一直線 ~清の馬~
- ・ いたずら
- ・ 電木君
- ・ 電波ちゃん
- ・ としょねっと
- ・ 提示版
- ・ プラットホーム
- ・ ライブラリ
- ・ いくら
- ・ 電々書 ~でんでんしょ~
- ・ 電学書
- ・ ししどじゅく
- ・ 茂書房 ~しげしょぼう~
- ・ 電書波図 ~でんしょぼと~
- ・ kugelblitz
- ・ 珍本堂 ~ちんぼんどう~
- ・ ブック大統領
- ・ ミラクル電波
- ・ ピックアップ電波
- ・ KING OF 電波
- ・ マジカル電波パワー
- ・ PA! PARA! 電波!!
- ・ えんぴつじゃないよHPだよ
- ・ booking パパ
- ・ サンライズ詫間
- ・ 詫間2001

次に審査発表です。  
待て、次ページ。

厳正なる審査の結果

4年情報工学科 中川京子さんの

## 電書波図 ~でんしょばと~

に決定しました。

さてここで、中川さんに突撃インタビューです。

図書委員：おめでとうございます。

中川さん：ありがとうございます。

図書委員：電書波図 ~でんしょばと~の由来を教えてください。

中川さん：ホームページと言う事で、情報発進が頭に浮び、次に、  
発進から伝書鳩が浮んだので、伝書鳩を電書波図、  
という文字で表しました。

図書委員：選ばれての感想をお願いします。

中川さん：ちょっとバビツたけど、うれしかったです。  
お金ピンチだったし(笑)

図書委員：他の候補を見ての感想をお願いします。

中川さん：パッとしませんね。センスと頭のキレが違うね(笑)

図書委員：ありがとうございました。

<お知らせ>

はじめは学生のページのニックネーム募集でしたが、図書館だよりを改名して、“電書波図”にすることにしました。

## 図書館についてのアンケート

図書館だよりニックネームの募集と同時に行ったアンケートの結果をお知らせします。

### a. 図書館の利用頻度はどの程度ですか？(単位：人)

項目	1年	2年	3年	4年	5年
1. ほぼ毎日	18	12	23	24	22
2. 1週間に2, 3度	39	32	41	57	48
3. 1ヶ月に数回	55	68	51	44	28
4. 1年間に数回	38	28	30	5	4
5. 利用しない	12	13	8	4	1
無回答	0	1	1	0	0

### b. 現在の図書館が利用しにくいのはなぜだと思いますか？(複数回答可)(単位：人)

項目	1年	2年	3年	4年	5年
1. 図書館の雰囲気が嫌	25	25	26	19	11
2. 読みたい(見たい)と思う本(LD、DVD)が無い	63	72	59	51	31
3. 図書館に行く時間がない	90	66	57	45	24
4. 入りにくい	11	6	11	9	5
5. その他	25	21	21	25	35
無回答	3	5	13	10	11

### d. 図書館の主な利用目的は？(3つまで回答可)(単位：人)

項目	1年	2年	3年	4年	5年
1. 文学図書の借り出し	49	27	35	33	21
2. 授業の参考書の借り出し	14	59	43	49	25
3. 雑誌の借り出し	10	17	13	11	9
4. 実験(準卒、卒研)図書の借り出し	0	25	35	66	58
5. CDの借り出し	49	49	29	28	11
6. LD、DVDの鑑賞	34	34	27	13	23
7. 勉強	72	39	52	27	18
8. パソコンの使用	51	25	20	24	18
9. 館内読書	61	47	34	22	20
10. 寒い(暑い)時の避難場所	18	27	20	28	9
11. 何となく暇つぶし(目的なし)	45	48	44	48	26
12. その他	1	3	3	4	8
無回答	6	6	8	8	3

e. 本、LD、CDをリクエストしたことがありますか？(単位：人)

項目	1年	2年	3年	4年	5年
1. ある	13	34	33	40	29
2. ない	146	118	117	91	66
無回答	0	2	4	3	0

g. 図書館だよりを読みますか？(単位：人)

項目	1年	2年	3年	4年	5年
1. 必ず読む	16	21	22	27	25
2. 読むときの方が多い	44	48	72	57	41
3. 読まないときの方が多い	65	51	43	40	21
4. 全く読まない	37	34	15	10	8
無回答	0	0	1	0	1

h. 次号から図書館だよりを紙での配布を廃止し、ホームページのみで掲載しようとしていますけどう思いますか？(単位：人)

項目	1年	2年	3年	4年	5年
1. 今まで通り、紙で配布してほしい	23	27	36	36	27
2. ホームページのみでよい	43	48	31	33	25
3. 配布数を少なくしてホームページに掲載するのがよい	14	19	19	12	19
4. どちらでもよい	74	53	62	47	20
5. その他	8	4	4	5	3
無回答	0	3	3	0	1

### 学生電書波図編集者の独断と偏見によるアンケートの考察

- dの結果を見ると、図書館は**ヒマつぶし**(LD、DVD鑑賞、PC使用)に来る人が多いようだ。質問bの「読みたい(見たい)と思う本(LD、DVD)が無い」という意見が多いことも考え合わせると、DVD、LD等が少ないため、来ない人が多い(編注：平成12年4月1日現在、DVD31点、LD198点所蔵。多いとも言えないが少なくもないと思うのだが)。
- ところが、eの結果より、数が少ないと感じている低学年のリクエスト率は低い(4、5年のリクエスト率は高いといえる)。これは編集者たちの中でも、リクエスト用紙の書き方が分かりにくいために、リクエストが少ないのではないかという意見もあったので、分かりやすく図書館にかけあってみようと思う(とはいっても、欲しければリクエストするのが基本なので**ワガママ**ではないかな……。とも感じるケド。)
- **図書館だより**は基本的に興味が薄いと思われる。特に低学年の興味の薄さが悲しい。もう少しつっこんだ設問として、「捨てていますか？」というのも調べたかったと個人的に思う。

- 図書館の存在やその利用価値(図書の貸し出しを行っていること、閲覧する場であること)に対して学生が興味を示していない。これは特に低学年に顕著に見られ、aでは「1ヶ月に数回」が最も多く、dでは1番に「勉強」、2番に「暇つぶし」であることから分かる。
- 勉強と言うのもおそらくテスト中のみで、低学年の学生がそれ以外の日に図書館で勉強しているのを見ることは殆どない。みんな勉強嫌いだもんね。
- eの回答で「ない」のが最も多いのはわざわざリクエストしてまで読みたく(見たく)はないと言うことで(たぶん・・・)これは当然リクエストをする際の煩わしさもある。
- bの最も多い答え「読みたい(見たい)と思う本(LD、DVD)が無い」であるが、私は勉強に関する本は十分に有ると思う。学生の皆さんが読みたい本と言うのは、おそらく勉強の本ではなく流行りの本であるとか、漫画、雑誌等であると思われる。漫画は無理だとしても雑誌や流行りの本はリクエストすることが出来るので是非利用してもらいたい。
- リクエストに関しては、投票制にして一番票数の多い本を購入する等の意見が編集者の中でも挙がっているので、それが実現すればかなりリクエストしやすくなると思う。
- 図書館だよりに関しては皆さんどうでもいい様ですね。どうやったら読んでくれるのだろうか? 毎回、何かの応募を募集して採用者の商品は図書券とか? 難しい所だ・・・。